家具のまち　大川

福岡県大川市

福岡県大川市は日本有数の家具産地。県南西部の筑後平野にあり、有明海に注ぐ筑後川の河口部に位置する。人口約3万7000人で、木工関連業者が集積。家具メーカーは100社を越え、建具、合板、製材など関連業者を含めると200社以上となる。住宅着工戸数の減少や輸入家具の増加など取り巻く環境は厳しいが、福祉家具の開発や異業種連携など意欲的な取り組みが進む。

福祉家具を開発

一枚板のテーブル

大川市は九州自動車道八女インターチェンジから車で約30分、長崎自動車道東脊振インターチェンジからも約30分。佐賀空港（佐賀市）と国際物流拠点の三池港（福岡県大牟田市）へも30分ほどで行ける。水郷の観光地として知られる福岡県柳川市や、産業都市の同大牟田市とつながる有明海沿岸道路は将来、佐賀県鹿島市近郊まで延びる計画だ。

大川の家具の歴史は470年ほど前、船大工が「船たんす」の製作を始めたことがルーツとされる。船たんすとは船上で使われる収納箱。この地では筑後川の上流から運ばれた木材が集まり、造船業が盛んだった。現在も「箱物」と呼ばれるたんすや棚など収納分野に強い。

かつては結婚する時に用意する婚礼たんすのセットを、多くのメーカーが手がけた。それが近年は、住宅新築の減少とアジアなどからの輸入家具の増加で苦戦。ピーク時の1991年と比べると事業所数、出荷額とも4分の1から5分の1程度に落ち込んでいる。

とはいえ産地は手をこまねいている訳ではない。新たな需要の開拓に熱心に取り組んでいる。2009年に発足した大川福祉家具研究開発協議会は福祉施設の設計段階から加わって専用の家具を開発・提供する。製品は自立支援をテーマとして高齢者が室内を移動する際に手すり代わりになるようにし、寝たきりになるのを防ぐ機能を持つものが多い。

同会のメンバーはメーカー各社、大川市、福岡県工業技術センターインテリア研究所、国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部、大川家具工業会など市内の産学官。最近は市内にショールームを設け、製品PRと在宅介護者や福祉施設関係者のニーズ収集を行う。大川の福祉家具の認知度を高める考えだ。

ショールームは家具の展示販売場「大川デザインミュージアム」の一角にある。車いすでの来場に配慮して出入り口は段差がなく、駐車場のそば。福祉施設の関係者向けに事務所用の家具を近くにそろえる。

国産材利用に関して、業界は杉やヒノキを使った開発を行っている。輸入家具との素材の差別化による需要開拓が狙い。製品購入は国内林業に貢献し、森林の二酸化炭素（CO_2）吸収量の確保にもつながることをPRしてイメージアップにつなげる。

大川家具工業会は12年度、九州産業大学芸術学部デザイン学科学生がデザインした家具を製作した。学生の感性を製品開発に生かすのが目的。家具バイヤー向け展示商談会で好評を得た。

作品は学生3－6人でチームをつくり「私の部屋づくり」をテーマに棚やテーブルなどをデザインした。参加した家具メーカーは10社。学生のプレゼンテーションを手始めにメーカーとの打ち合わせや試作を重ね、完成まで約1年をかけた。

学生は卒業生に、住んでいる部屋の間取りなどを聞き取り調査した。社会人になって間もない一人暮らしのワンルームをイメージ。必ず使用する棚やテーブル、ベッドなどを、想定売価を付けてデザインした。靴を向かい合わせて互い違いに入れる靴棚や本が倒れないよう棚が斜めになっている本棚などユニークな発想が見られた。

市内への移住を視野に古民家に約3カ月住み込み、木工技術を学ぶ体験や地域の情報をブログで発信してもらう取り組みがある。大川市を含む福岡県筑後地域で実施されている「ちくご移住計画2013」の木工職人編だ。8月から福岡市の26歳の男性会社員が起業を目指しており、11月からは神奈川県海老名市の40歳の男性会社員が活動をスタートする。

業種問わない　優遇制度

大川市には企業誘致のため2つの優遇制度がある。施設設置奨励金と雇用奨励金で、業種を問わない。

施設設置奨励金は投資額3000万円以上の事業所設置などが条件。金額は3年間の固定資産税相当で3億円を上限とする。雇用奨励金は半数以上を市民とする新規の常勤雇用5人以上が対象。市民の雇用1人当たり30万円で、限度額は1000万円。

誘致のための報奨金制度もある。法人、個人を問わず情報提供や誘致交渉に対して支払われる。金額は設備投資額の0・5%。誘致企業の同意を得るとともに市長の認定を受けた推進員になることが必要だ。報奨金制度は製造業や電気・ガス・熱製造業など誘致企業の業種が指定されている。

市内では廃業で工場が空くケースがあり、市は倉庫を含めた空き工場の情報を収集している。

国指定重要文化財の筑後川昇開橋

インタビュー

鳩山（はとやま）　二郎（じろう）　市長

父である鳩山邦夫衆院議員の秘書から大川市長に転じた鳩山二郎氏。国との大いパイプを持ち、幅広い人脈を生かしたトップセールスが期待される。福岡県で最も若い34歳の市長に地域経済活性化にどう取り組むのかを聞いた。

―7月23日に就任して2カ月たちました。

「まだ市長のスケジュールをこなしながら市の各部署の担当者からレクチャーを受けている最中。市長の仕事は生活に直結していることを実感している。秘書時代と行政のとらえ方は変わった。夢を持たなければならないが、夢だけを語るわけにはいかない。市民の生活を守らなければならないという責任を感じている。これから国とのパイプ役を果たしていきたい」

―地場木工産業の現状はいかがでしょう。

「一言で言えば元気がない。戦後復興、経済成長の時代は均質な家具が売れ、大川が潤った。現在は住宅事情の変化で市場が縮小し、同じような家具では売れない」

―その状況に市はどのように取り組みますか。

「歴史で培った技術があることは間違いない。ただしPR不足を感じる。良い物を作るだけでなく、戦略に基づく売り方が重要だ。選挙期間中からトップセールをやると言っており、できるだけ早く始めたい」

―地域活性化の案を聞かせて下さい。

「家族連れが来る集客力のある拠点が必要。テーマパークのように楽しくなければ来てくれないだろう。家具業界では常設展示場の必要性が、従来から語られている。また『道の駅』が活用できるのではないか。商業施設の誘致もある。家具があり、特徴的な食の体験ができたらいい。イチゴ、アスパラガス、ノリなどの特産品が生かせる」

「従来あるイベントには工夫の余地がある。工夫により、もっと多くの人に市の魅力を知ってもらえるはずだ。近隣自治体のイベントと連携できる可能性があり、市のイベントに参加を呼びかけることから始めたい」

10月12―14日に木工まつり

大川市最大のイベントが毎年秋に開かれる。今年で64回目となる「大川木工まつり」。期間中は15万人が訪れる。

メーカー200社が1万点以上の家具を市内の大川産業会館などで、市場価格より安く展示即売する。期間中、通常は買い付け業者しか入ることができない展示場を開放する業者もあり、市全体がショールームとなる。

大川市文化センターでは「大川の技術『手の道具・初期の木工機械等』の展示」を開催。産地の歴史を伝える道具を紹介する。大川中央公園で開くのは「ジャパンメイドネットワーク物産展」。愛知県瀬戸市の「瀬戸焼」、三重県四日市市の「萬古焼」、「日永うちわ」などの地場産品を展示販売する。今では各産品の写真をインターネットで見ることは簡単だが、手触りの魅力を感じられる機会は貴重だ。

毎年人気は子供向け木工教室。産地らしく材料は実際の家具に使われる物で一部加工済み。そのため完成度が高く喜ばれている。

木工教室の様子

アトリエ木馬　検索

東京 青山ギャラリー
東京都港区南青山2-27-20
TEL：03-6721-1396

大阪ギャラリー
大阪市中央区本町橋 2-14
TEL：06-6948-5216

東京 新宿ギャラリー
東京都新宿区西新宿 3-7-1
新宿パークタワー OZON 5F
TEL：03-3344-3551

福岡 天神ギャラリー
福岡市中央区今泉 1-2-30
天神プレイス イースト 1F
TEL：03-3344-3551

家具産地 大川 関家具

お問い合わせ先　福岡大川ショールーム
福岡県大川市幡保 172-3　☎0944-88-0108